

# 海老名災害ボランティアネットワークだより

第31号



発行 海老名災害ボランティアネットワーク（海老名災ボラ）  
 事務局 海老名市めぐみ町6-3海老名市社会福祉協議会地域福祉課内  
 ホームページアドレス <http://www.ebina-saibora.net/>

## 災害はいつ起こるか分からない⇒「日頃の備え」と「訓練」参加を！

2011年3月の東日本大震災、2016年4月の熊本地震では、多くの方が亡くなっただけでなく、今もなお、不自由な生活をしている人がたくさんいます。現在、首都直下型地震の発生が危惧されていますが、地震がいつ起こるかを正確に予測することはできません。しかし、日頃の備えと心構え・訓練によって、地震発生による被害を減らすこと（減災）は可能です。

「自分の命は自分で守る」（自助）という姿勢を出発点に、隣近所や地域の人々の助け合い（共助）を作りながら、行政とも協力して（公助）地震災害に強いまちづくりを進めていきましょう。現在、海老名災ボラは、皆さんの「自助」力を高めるために次の3点を強調した防災訓練を進めています。

### （1）地震発生時には「命を守る基本行動」（シェイク・アウト）の実行！



地震発生時、「身を低くして、頭を守り、揺れがおさまるまで動かない」ことが命を守る基本行動だと思います。

室内では物が落ちてこない・倒れてこない場所、室外ではブロック塀・電柱など倒壊の危険のある場所を避けて、直ちに、この行動をとってください。

### （2）住宅の減災対策：「室内でケガをしない」・「火事を出さない」ための備え！

地震の揺れで、家具類が転倒したり、大きく移動したり、天井から物が落ちてこないように、家具類の固定化やガラス飛散防止などの体験型訓練を行っています。また、火事を出さないように、感震ブレーカーの設置、住宅用火災報知器の設置、住宅用消火器の用意など防火対策をすすめています。特に、通電火災防止対策をアピールしています。

### （3）水や食糧の「日常備蓄」⇒電気・ガス・水道が止まっても家で暮らせる備え！

大規模地震が発生すると、電気・ガス・水道がストップするとともに、物資供給が停滞します。家が倒壊しなければ、3日間～1週間くらいは自宅で生活できる備えが必要です。

水と食糧の備蓄では、「日常備蓄」（ローリングストック）を実践してください。これは、水・食料品・日用品を少し多めに購入し、古い物から消費して、使った分を補充するという方法で、いつも一定量の水・食糧・日用品が備蓄した状態が保たれます。また、家の水洗トイレを水が出なくても・水を流さずに、ビニール袋や固形剤・新聞紙などを利用して「固形物として処理する方法」をすすめています。

海老名災ボラは、自治会・各種団体の自主的な防災訓練に協力しています！

### ●サンパルク 650 自治会主催の防災・減災訓練に協力！



【写真：開会・訓練の進め方の説明】

海老名市南部の大きな団地「サンパルク 650」自治会は、サンパルク 650 団地「全体管理組合」と海老名災ボラの協力で、7月22日（土）10時～12時に、「体験型：防災・減災訓練」を行い、約40名の住民が参加しました。約2時間かけて、防災・減災訓練の各種の課題をグループごとに実施しました。

- ①水の備蓄と水運び体験：水容器を持って運ぶ訓練
- ②災害時のトイレ対策：水を流さずにトイレを使う方法
- ③家具類の固定・移動対策：固定する各種の方法
- ④ガラスの飛散防止対策：飛散防止シールの貼り方
- ⑤通電火災防止対策：電気ブレーカーの取扱い方
- ⑥災害食（アルファ化）の食事体験
- ⑦地震発生の声で、シェイクアウト訓練



【写真：通電火災防止対策の説明】

参加者は、グループに分かれて、課題の場所へ行き、説明を聞き体験します。説明員は事前に災ボラが実施した訓練を受けた自治会役員です（災ボラ会員が補佐しました）。参加者アンケートでは「良かった」という声が多く出されました。エレベーターが止まった中で、高層階への水や物資の運搬に不安が出されました。

### ●「防災ポーチ」の活用を説明 ⇒ 東柏ヶ谷小学校 1年生の福祉教室で！

海老名市は市内の1年生全員に「災害対策用携行ミニポーチ」（防災ポーチ）を配布し、持参するように指導しています。6月28日（水）東柏ヶ谷小学校の1年生（74名）に、災ボラ会員がミニポーチの使い方をわかりやすく説明しました。このポーチの中には、ホイッスル、飲料水、ポケットティッシュ、絆創膏、カロリーメイト、ビニール袋など役立つ物が入っています。

### ●新聞紙を使ったコップづくり ⇒ 海老名3館フェスティバルに参加！



8月5日に海老名市総合福祉会館・海老名市図書館・海老名市文化会館の「3館フェスティバル」が開催され、海老名災ボラは総合福祉会館内で参加しました。会場に来た方に、災害時に新聞紙とプラ袋を使った「紙コップづくり」、「災害時のトイレの使い方」を体験して頂きました。災害時に、ふだん使う物が無くても、さまざまな工夫をすることで代替できる物を作れることなど「柔軟な考え方」「工夫」の重要性を訴えました。

【写真：新聞紙でコップづくり】

## 海老名災ボラ主催：体験型講座：減災・災害対応訓練を実施！



【写真：家具転倒防止対策（固定）】

9月24日（日）10時～13時、海老名災ボラは社会福祉協議会と海老名市危機管理課の協力を得て、「体験型講座：減災・災害対応訓練」を開催しました。この体験型講座は、2015年より毎年、開催されています。今年は22名の方が参加しました。参加者は3つの班に分かれて、各課目の場所をまわり、災ボラの会員から説明・実演を受けるとともに、自分で体験しながら、熱心に学んでいました。

### ●「家具転倒防止とガラス飛散防止対策」

家具と壁内の柱を金具でネジ止めすることが最も丈夫ですが、ポール式の器具（突っ張り棒）の使い方など様々な方法を体験しました。

### ●「水の備蓄と水の運搬訓練」

飲料水は1人1日3リットルは必要で、ペットボトルや密閉できる容器に保管します。家で備蓄した水が無くなった場合、海老名市が指定する給水拠点に、各家庭から水をもらいに行くこととなります。給水拠点から家まで、どのような容器



で

【写真：水の運び方の訓練】

運ぶのが自分に最適

かを体験しました。

### ●「災害時のトイレ対策」（固形物として処理する方法を学ぶ）

大規模災害時、水道が止まったら水洗トイレは使えません。特に集合住宅で排水管が損傷したら、汚水が漏れ出して階下の部屋は大変なことになる可能性があります。家の水洗トイレで、水を使わずに用を足す方法（ビニール袋と吸収する物を使って固形物として処理する方法）を学びました。

### ●「災害時の照明と通電火災防止対策」

懐中電灯をランタンとして使う照明の工夫、通電火災防止対策として「感震ブレーカー」の設置、ブレーカーの復旧手順などを学びました。

最後は、全員でアルファ化米を試食しながら感想を述べあいました。

【写真：災害時のトイレ対策】

## 「ビッグレスキューかながわ」（小田原会場）に参加、来年は海老名市で開催！



9月1日（金）に開催された「ビッグレスキューかながわ」（神奈川県・小田原市合同防災訓練）に参加しました。小田原市社会福祉協議会が開設した「災害救援ボランティアセンター」に県内のボランティアが集まり、災害時のボランティアセンターの

開設訓練を行いました。来年（2018年）8月下旬の「ビッグレスキューかながわ」の会場に海老名市が指定されました。

【写真：ボランティアセンター開設訓練】

## ●来年「コーディネーター養成講座」を開催⇒皆さんの応募を期待！

「災害救援ボランティアセンター」のスタッフの養成が必要になっています

海老名市が大規模な災害の被災地になった場合、海老名市社会福祉協議会が中軸となって「海老名市災害救援ボランティアセンター」が開設されます。その時に、救援ボランティアセンターの運営スタッフが必要になります。社協の職員や災ボラ会員の中からスタッフが選抜されることになっていますが、人員には限界があります。特に、海老名の「被災者のニーズ」を把握し、全国から来る「ボランティア」を結びつける「コーディネーター」役が不足すると思われます。そのため、毎年「コーディネーター養成講座」を開催し、養成講座終了者を登録しています。

### 《 2018年：コーディネーター養成講座の案内 》

海老名市社会福祉協議会・海老名災害ボランティアネットワークの共催です。

第1日目：来年2月17日（土）10時～15時半頃、座学（講義）が主です。

災害時における海老名市の対応、社会福祉協議会の役割、災ボラの役割、救援ボランティアセンターの運営などの講義が毎年、行われています。

第2日目：来年2月24日（土）10時～13時頃、救援ボランティアセンター開設訓練（実技）

上記の2日間とも出席できる方を、来年初めに募集します。

●応募の詳細は下記の広報紙をご覧ください。

「ぬくもり通信」；2018年1月1日号（海老名市社協発行）

「広報えびな」：2018年1月15日号（海老名市発行）

## 海老名災害ボランティアネットワーク 会員募集中！

### ① 市民の減災・災害対応の「自助」能力を高める活動！

平常時には、市民の皆さんの減災・災害対応の「自助」能力を高めるための諸活動を推進しています。本日のような市民向けの体験型訓練、小学校での防災講座（社協の「福祉教室の一環として）、海老名市の各種イベントに参加して防災・減災に関する啓発活動を進めています。

### ② 海老名が被災地となった時に、災害救援ボランティア・スタッフとしての活動！

海老名市が地震災害などの被災地となった時に、社協が中軸となって設置される「災害救援ボランティアセンター」でスタッフとして活動します。そのための「コーディネーター養成講座」（通常は年1回2日間）を開催しています。

### ③ 大規模災害が発生した場合に、被災地・被災者支援のボランティア活動へ参加！

東日本大震災のような大規模な地震災害が発生した場合、被災者・被災地への支援活動を行ってきました。新潟地震災害支援、東日本大震災の支援などの活動を実施してきました。

●海老名災害ボランティアネットワークは、海老名市に在住または在勤の方を対象としたボランティア団体です。1年間の会費：一般会員は2000円、賛助会員は1000円、団体会員3000円。

年1回の定時総会があります。定例会は毎月1回「第1木曜日」に午後7時～9時 総合福祉会館の会議室で開催しています。会員になりたい方は、災ボラの会員か社協地域福祉課まで連絡してください。